

地域住民説明会要点録

1 開催概要

開催日時	令和 7 年 8 月 3 日（日） 10：00～12：35
開催場所	那須烏山市南那須公民館研修室（那須烏山市岩子 6-1）
出席者	住民：44 名（うち取材 1 名） 行政：川俣組合長、福島副組合長、他関係職員 4 名

2 進行

- (1)開会・あいさつ・出席者紹介
- (2)保健衛生センター・施設整備の経過報告
- (3)し尿処理施設整備基本計画の説明
- (4)汚泥再生処理センター建設候補エリア選定の結果説明
- (5)汚泥再生処理センター施設整備スケジュール（案）の説明
- (6)ごみ処理施設整備方針の見直し・再検討の説明
～休憩～
- (7)質疑応答、意見交換
- (8)閉会

3 配布資料

次第、保健衛生センター施設整備経過、し尿処理施設整備基本計画概要版、令和 6 年度汚泥再生処理センター建設候補エリア選定の結果、施設整備スケジュール（案）、ごみ処理施設整備方針の見直し・再検討

4 説明

事務局より配付資料に基づき以下のとおり説明した。

（簡易要約）

○保健衛生センターの施設（し尿処理施設、ごみ処理施設）の概要及び組合の沿革、施設整備の経過等について説明をした。

○「し尿処理施設整備基本計画」について説明

- ・現施設は、平成 26 年度に施設の延命化等を目的に基幹改良工事を実施したが、稼働から約 40 年経過し各設備機器や躯体の老朽化が顕著である。また、搬入量の減少や搬入性状も変化していることから、し尿等の適正処理を将来的にも継続して

いくため、令和４・５年度に「し尿処理施設整備基本計画」を策定した。

- ・新施設は、環境省の循環型社会形成推進交付金の交付金対象事業として「汚泥再生処理センター」を整備することとした。また、施設規模は、人口減少や公共下水道の普及等を踏まえ 40kl/日（し尿：4kl/日、浄化槽汚泥：36kl/日）とし、処理方式の検討手順としては、１次選定２次選定に加え、建設費等についてメーカーアンケートを行い総合的な評価を行った。
- ・１次選定の水処理方式の選定については、生物学的脱窒素処理を行って河川に放流する「河川放流方式」と前処理や前脱水、生物学的脱窒素処理後の処理水を下水道に放流する「下水道放流方式」があり、それぞれの放流方式に合った水処理方式を比較・検討した結果、河川放流の場合は「浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式」、下水道放流の場合は「前脱水+希釈方式」または「生物学的脱窒素処理方式」が処理可能方式として選定された。
- ・資源化については、本事業は循環型社会形成推進交付金事業を活用することから交付要件である資源化方式を検討することとし、１次選定の結果として「堆肥化方式」「助燃剤化方式」「リン回収方式」が選定された。
- ・水処理方式と資源化方式それぞれの１次選定の結果を組み合わせ、適している組み合わせを検討した結果、河川放流の場合、「①生物学的脱窒素処理+堆肥化」「②浄化槽汚泥対応型脱窒素処理+助燃材化」「③浄化槽汚泥対応型脱窒素処理+リン回収」の３方式が選定され、下水道放流の場合は「①前脱水希釈+助燃材化」「②生物学的脱窒素処理+堆肥化」の２方式が選定され、計５つの組み合わせが選定された。
- ・２次選定においては、１次選定の結果を「環境負荷低減」「資源循環」「経済性」「安全安定稼働」「その他」で点数付を行い、「水処理方式：下水道放流方式・生物学的脱窒素処理方式」「資源化方式：堆肥化方式」が選定された。
- ・施設管理、運営方針等については、メーカーアンケートも踏まえ総合評価した結果、DBO（Design-Build-Operate：設計-建設-運営）方式が本事業に望ましいと結論付けられた。
- ・概算事業費については、プラントメーカーからの概算事業費見積を参考に算出し、「施設建設費：44.7 億円、維持管理費：38.86 億円/20 年間」となった。

○「令和６年度汚泥再生処理センター建設候補エリア選定」の結果について説明

- ・令和６年度に「し尿処理施設整備基本計画」を踏まえ、建設候補エリアの選定を行い、令和７年度には建設候補地の絞り込み作業を行う予定である。
- ・選定の流れについては、１次選定「広域候補地域の選定」、２次選定「狭域候補地域の選定」の軸と構成市町からの抽出による選定の２軸で検討し、最終的に３次選定

によりエリアを選定した。

- ・1 次選定では、施設を建設するために好ましい条件をポジティブ要素とし、建設するために好ましくない条件をネガティブ要素として、それぞれを地図にして重ね合わせ、13 カ所を抽出した。
- ・2 次選定では、1 次選定で抽出された 13 カ所を、収集運搬車両のアクセスを考慮したポジティブ要素と、住宅地等周辺の状況を考慮したネガティブ要素を 1 次選定と同様に地図にして重ね合わせ、5 カ所を抽出した。
- ・構成市町からの抽出としては、敷地面積 6,000 m²以上の敷地が確保でき、下水処理場または下水道本管からの距離 500m以内を要件として 16 カ所を抽出した。
- ・3 次選定では、2 次選定の 5 カ所と構成市町からの抽出 16 カ所を土地の面積や土地利用状況から検討し建設可能候補地として 16 カ所を抽出した。
- ・抽出した 16 カ所を評価するため、自然環境、土地利用、防災面、周辺環境の保全、社会条件、下水道、合意形成、経済性を踏まえ 30 の評価項目を設定し点数化を図った。
- ・結果、南那須 312 エリアが上位 5 カ所の内 3 カ所を占めることから建設候補エリアとした。

○施設整備スケジュールについて

- ・基本計画において供用開始までのスケジュールと令和 7 年度、令和 8 年度のスケジュールを掲載しているので、後ほどご覧頂きたい。

○ごみ処理施設整備方針の見直し・再検討について

- ・環境省より「中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について」が令和 6 年 3 月 29 日に発出された。
- ・県が主体となり、ごみ処理施設の広域化・集約化を図るべく、市町・広域行政等と協議を進めることとなった。
- ・当組合としては、積極的に広域化・集約化に参画していく姿勢であるが、広域化・集約化は 10 年以上先になることから、令和 7 年度、令和 8 年度にかけて現施設の長寿命化を図るため、計画を策定するところである。

5 質疑応答

○説明に入る前に行われた質疑応答

発言者 A（那須烏山市東原、男性）

Q1：地元自治会では「何も知らされていない。」状況であり「エリアを選定した。」

というのは、おかしい話だと思う。選定の経緯を知りたい。

A1：6月29日には圏域全体を対象として説明会を開催させていただいた。今回は、令和5年度に策定した「し尿処理施設整備基本計画」から「エリア選定」までを説明させていただきたい。

○説明後の質疑応答

発言者 A（那須烏山市東原、男性）

Q1：南那須エリアが選定されたのであれば、地元への説明が優先されるのではないか。

A1：組合は一市一町の共同事務を行っていることから、まずは、圏域全体に対して説明会を開催させていただいた。その後、大金、東原、小河原、高瀬の4自治会長より要望もあり、今回の説明会開催の運びとなった。

発言者 B（那須烏山市大金、男性）

Q1：候補エリア選定の過程について、社会条件として他の候補地と比較してどの程度差があったのか。また、防災面の評価をする際に、どのような安全対策を考えて評価基準に入れているのか。

A1：社会条件としては、インフラ、騒音、搬入道路等について評価をしております。南那須は特に搬入道路の幅員や主要道路からのアクセスが悪いので、評価が低くなっています。防災面については、各施設の浸水履歴等を踏まえ評価を実施している。

Q2：道路整備はこれからとなると、建設に至るまでのスケジュールは大きくずれてしまうのか。

A2：建築や用地交渉との兼ね合いが大きく関係することから、道路整備があまりに遅いとスケジュールが大きく遅れる可能性もある。

発言者 C（那須烏山市東原、女性）

Q1：搬入路を想定すると、新設されたこども園の北側を通ることになると思うことから、別の道を作って欲しい。

A1：ご意見として承ります。

発言者 D（那須烏山市東原、男性）

Q1：処理方式については、点数をつけて決定し公表しているが、候補地選定の3次評価の点数は、なぜ公表しないのか。堆肥化については需要が無いと聞いているが、なぜ、資源化を堆肥化としているのか。

A1：3次選定の点数については、内部作業のための付点であり、場所を特定されかねないため公表を控えている。今後、候補地を絞り込みしていく段階では、具体的な点数を出して説明させていただきたい。堆肥化については、議会からも強い要望があり、堆肥の需要もあるとのことであったので、堆肥化とした経緯があります。今年度、酪農家を対象にアンケート調査を実施し、この地域では

堆肥の需要が無いことが明らかになりました。この結果については、近く組合議会で報告させていただき、組合議会の判断を頂く必要があると考えている。

Q2：資源化方式が変わった場合、候補地の設定はやり直す必要があるのか。候補地については点数の公表を控えていると言われると、意図的に選定していると捉えられても仕方がないと思う。

A2：資源化が変わったとしても、取得する用地面積が 1,000 m²から 2,000 m²程度減ることになるだけであり、候補地の見直しは行いません。2 番目の点数については、意図的に選定しているわけではなく、評価作業をするうえで点数をつけて評価している。

発言者 E（那須烏山市大金、男性）

Q1：今後のプロセスについて、このエリアにある 6 カ所の候補地に対してどのように進めていき、どの方と協議を進めるのか。反対運動が起きた場合、他の候補地を選び直すことはあるのか。

ごみ処理施設については、いつまでもつのか。また、し尿処理に合わせてごみ処理施設も持ってくることはあるのか。

A1：現在、エリアを選定させていただき、今後、具体的な候補地を絞り込む作業を進める予定である。説明会については、候補地選定の際に開催をさせていただき、ご理解を得たい考えである。反対運動があった場合には、反対の理由をお伺いしたいと考えている。ごみ処理施設は、延命化する必要がある、令和 7～8 年度にかけて計画を策定し、15 年程度の延命を予定している。

発言者 F（那須烏山市大金、男性）

Q1：南那須エリアに建設することになった場合、住民に対して環境対策をしっかりと住民が納得できるようにして欲しい。

A1：ご意見として承ります。

発言者 G（那須烏山市小河原、男性）

Q1：候補エリアは定住促進を図る地域であり、建設をされると環境的な面でマイナス要因になる可能性がある。定住促進に影響はないか。

搬入路についても、車がすれ違えないような市道もある。道路整備等のインフラ整備費用も相当掛かると思うが、そちらについても検討願う。

A1：現在の、施設やバキュームカーは悪臭を外に出さない装備が整っているので、環境的なマイナス要因にはならないと考える。

搬入路については、現在エリア選定の状態であり、搬入路も決定していない状況である。

発言者 A（那須烏山市東原、男性）

Q1：先ほど、インフラ整備の話があったが、バキュームカーは 1 日何台くらい通る

想定をしているのか教えていただきたい。

A1：1日あたり20台から30台を想定している。

Q2：受入時間を6時間/日と想定すると5～6分に1台通過する計算になる。そのくらい交通量が増える見込みでよいのか

A2：現在のし尿処理施設においても、同数程度の搬入車両があるが、だいたい午後の早いうちには搬入が完了している状況である。

Q3：自治会としては、短時間のうちに大型車が通るという認識でよいのか。

A3：その通りである。

発言者 H（那須烏山市小河原、男性）

Q1：小河原の堤防沿いは浸水想定区域にあり、この候補地は1番水害が起こる地域だと思う。したがって候補地は抜本的に見直すべきである。東原、大金地区は住宅促進地であると思う。施設建設によって若い世代が他の地域に出て行ってしまう危険性があることから候補地については、抜本的に見直しをして再検討をして欲しい。

A1：防災面に関し貴重な意見として承ります。

発言者 I（那須烏山市東原、男性）

Q1：搬入路の道路の幅員はどのように考えているのか。

A1：建物を建てるために必要な道路幅員は確保していきたいと考えている。

Q2：こども園北側の道路（片側1車線、歩道付き）をイメージすればよいのか。

A2：こども園北側の道路の幅員は分かりませんが、建設に必要な幅員を確保することとなる。

発言者 J（那須烏山市小河原、女性）

Q1：搬入路の拡幅とともに、安全に通学ができる歩道が必要と考えるので、搬入路整備に併せて検討願う。このことを考えて進めてもらわなくては困りますので、反対させて頂く。ご検討してほしい。

A1：候補地が決定していないので、搬入ルートも決定していない状況である。道路整備は、那須烏山市と通学の安全面を踏まえて協議していく。

発言者 K（那須烏山市高瀬、男性）

Q1：施設整備や道路整備、堆肥プラント整備には相当なお金がかかるため費用対効果を十分に検討していただきたい。必要最低限の施設でよいと思う。

A1：ご意見として承ります。

発言者 A（那須烏山市東原、男性）

Q1：東原地区は水田が多いが農業経営者の高齢化が進んでいくと、将来的には住宅地になるのではと思われる。し尿処理施設は必要であり、総論としては賛成だが、汚泥再生処理センターがこの地域に建設され、住宅地としての魅力

が失われてしまうということを考えると、私は建設に反対したい。

A1：ご意見として承ります。

発言者 E（那須烏山市大金、男性）

Q1：道路整備の費用負担は、那須烏山市単独での負担になると思うので、費用対効果を十分に検証していただきたい。

A1：道路整備は必要になる。どういう道路整備をすべきかというのは非常に重要になることから費用対効果を検討させていただきたい。

発言者 A（那須烏山市東原、男性）

Q1：水処理センターまでの道路に枝が張り出していて、自治会でも処理はしているが、高所は処理できないでいる。地権者は不明だが、枝打ち等をお願いしたい。

A1：ご意見については、市の方に伝えておきます。

発言者 L（那須烏山市大金、男性）

Q1：し尿の運搬中や施設での処理中等の臭い対策は大丈夫なのか。搬入路について、候補地を選定する中で検討を行ったのか。資源化については、議会内部でも畜産農家で大量に利用できることから堆肥化を推進したが、需要が無いということであれば、取りやめるべきではないかと思う。取りやめる場合資源化をどうするのか。また、荒川の水質低下について事務局の方で検討したのか。

A1：運搬や処理の臭いについては、現し尿処理施設においても外に漏れ出ることはない。新施設でも悪臭対策を施すため臭気が漏れ出ることはない。

搬入路の経費については、机上で概算費用を算出し評価をしている。

堆肥化については、住民からの意見もありますので、議会としての意思決定、意思表示が必要になるのではないかと考えている。

水質の件については、資源化方式を何にするかによって、希釈水や排水量、排出される汚泥量を試算している。資源化方式が変わった場合を含めて9月議会では報告できると思われる。

■他に意見が無かったため、説明会を終了した。（12：35）

※詳細については、住民説明会の動画をご覧ください。